

Smiles

移行期間中の実践

特集

- ◆移行期間の現状とお役立ちウェブサイト ②
- ◆三鷹市の取り組みとわが校の工夫／吉村達之 (三鷹市立第七小学校校長) ④
- ◆複式授業における授業展開／三谷浩司 (宇和島市立戸島小学校教頭) ⑥
- ◆外国語巡回指導教員としての取り組み／
前田陽子 (熊本市立飽田東小学校教諭) ⑧

授業実践

- コメントワードで心をつなぐ英語活動を
～小さな村の実践を振り返って～
大門賀子 (千早赤阪村立千早小吹台小学校教頭) ⑩

連載

- ◎ **新連載** 世界の国から Hello!
第1回：シンガポール編／草埜圭紀 ⑫
- ◎豊かなコミュニケーションを育むアクティビティ(4)／
遠藤恵利子 (東北学院大学非常勤講師) ⑭
- ◎心を伝える Classroom English(4)／
福田 スティーブ利久 (文教大学准教授) ⑮



移行期間の現状とお役立ちウェブサイト

[編集部]

約3割は今年度から全面实施

文部科学省は、全公立小学校 19,333 校を対象に移行措置期間（平成 30～31 年度）の授業時数を調査した結果を、今年 5 月 8 日に公表しました（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1404606.htm）。外国語教育と総合的な学習の時間（以下、総合）のそれぞれについての確保時間を公表しており、これによると、今年度、3 年生および 4 年生では、54% の小学校が外国語教育について 15 時間の移行措置分のみを実施し、35% の小学校は全面实施と同様の 35 時間もしくはそれ以上で実施しています。移行期間中に限り、総合を年間で最大 15 時間ぶん削って充てることも認められていますが、3・4 年生について、総合を 1～15 時間減じて編成した学校は今年度 29%、減じずに編成した学校は 71% でした。

5 年生および 6 年生については、63% の小学校が 50 時間の移行措置分のみを実施し、29% の小学校は全面实施と同様の 70 時間以上で実施しています。同様に、総合を 1～15 時間減じて編成した学校は今年度 28%、減じずに編成した学校は 72% でした。

来年度については、3 年生および 4 年生での全面实施相当以上の編成で外国語教育の時間を確保するのが 45%（前年度より 10% 増）、5 年生および 6 年生では 42%（同 13% 増）の予定となります。

このことから分かるのは、移行措置で求められている通りに中学年の編成をしているのが、今年度の時点で半数余りあり、新学習指導要領に沿って実施しているのが約3分の1。これに対して、高学年では、移行措置どおりは6割余り、新学習指導要領どおりの実施が約3割という状況にあります。来年度は全面实施相当の学校の割合が増えるとはいえ、その次の平成

32 年度（2020 年度）には新学習指導要領に基づく編成が全面实施となります。それまでに時数の確保策を見出さなくてはなりません。短時間授業の導入が可能なのか、または 1 時間の純増に様々な調整をすることで対応するのか等、それぞれの地域・学校に適した教育課程編成上の工夫を模索していく必要があります。

今年度からの3年間で 専科指導教員 4,000 人増加へ

文部科学省は昨年 12 月 18 日、新学習指導要領の全面实施に向け、平成 30 年度の公立小学校の教職員定数について、質の高い英語教育を担う「専科指導教員」を 1,000 人増やす方針を明らかにしました。また、新学習指導要領における小学校の英語教育対応のほか、平成 32 年度段階での学級数の減少、学校における働き方改革の観点から教職員の必要数を見直した結果、平成 32 年度までの 3 年間で約 4,000 人の定数改善が必要だと見込んでいたとのことで、平成 31 年度にさらに 1,000 人、平成 32 年度にさらに 2,000 人が加配となる見込みです。

加配教員の役割としては、専科指導やチーム・ティーチング（TT）により学級担任をサポートすることや、校内研修や他教員への指導助言、ALT との連携等の中心的役割が期待されています。

文部科学省による「量」的支援としては、このほかに、JET プログラムによる ALT を地方交付税措置により財政上からサポートしたり、JET 以外の ALT でも「補習等のための指導員等派遣事業」を活用すれば、3分の1を財政補助することとしています。

「質」的支援としては、平成 26 年度からの 5 か年で小・中・高等学校における英語教育推進リーダーを養成する中央研修が行われてきており、小学校では全国で年間約 200 名が参加しています。

移行期間中の実践—02

三鷹市の取り組みとわが校の工夫

吉村達之 三鷹中央学園 三鷹市立第七小学校 校長



東京都中学校英語教員、ロス・アンジェルス補習授業校勤務を経験。指導主事を経て、小笠原村立母島小・中学校に副校長として赴任。平成21年度から三鷹市内各校の副校長、校長を経て、現任校に校長として赴任4年目。現在、学園長・校長として勤務。

全国英語教育団体連合会(全英連) 常任理事
東京都小学校英語教育研究会(都小英研) 副会長
東京都中学校英語教育研究会(都中英研) 小・中連携担当役員
平成28年度東京都教育開発委員会(外国語活動) 委員長
三鷹市小・中一貫カリキュラム作成委員会外国語(英語) 部会長
三鷹市立小・中学校教育研究会(鷹教研) 英語部顧問
『主体的な学びをめざす小学校英語教育』(教育出版) 執筆者

市独自の小・中一貫カリキュラム 暫定版が完成

本校のある三鷹市は、東京都のほぼ中央に位置しており、人口約18万7000人を擁しています。交通至便で都心に近く、緑豊かな環境の中にあります。三鷹市では「コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育」に取り組んでいます。小学校15校、中学校7校が、中1校と小2(～3)校で7つの「学園」となり「小・中一貫教育校」を構成しています。

本校も、第三小学校・第四中学校とともに「三鷹中央学園」を構成しています。児童数は約350人で、通常の学級12クラスに知的固定学級3クラスがあり、校内通級(特別支援)教室の拠点校でもあります。

三鷹市教育委員会は昨年度、学習指導要領の改訂をふまえ、各教科・領域ごとに策定している「三鷹市小・中一貫カリキュラム」の全面的改定作業を行い、大学教授や各校の管理職、教員からなる13部会が「暫定版」を完成させました。(現在も継続中)

このような状況の中、大きく変わる英語教育に対する、三鷹市の取り組み・支援と本校の工夫を紹介します。

年間総授業時数増への対応

三鷹市では、これまで低学年にも年間10時間程度、中学年で15時間程度、英語活動の時間を設けてきました。来年度からは外国語(英語)活動を高学年70時間、中学年35時間、低学年15時間行います。

今年度、本校では平成31年度と同じ時数で外国語活動を行うことに決定し、まず高学年の年間35時間増の授業時数をどこに設定するか、工夫を迫られました。

まず第1に「特月」と呼ばれる、特別日課の月曜日の設定です。「特月」の日は全校朝会をなくし、1校時の授業を8時35分開始としました。日課を詰めて、児童の完全下校時刻はほぼそのままに、あらたに6校時を設定しました。4年生以上の児童は、6校時後に委員会・クラブ活動をして下校します。この「特月」は昨年度5回試行しましたが、今年度は17回設定することで17時間の時数増となりました。

第2に「特土」(特別日課の土曜日)を設定したことです。これまでの土曜授業日(振替有)に加え、午前中3時間だけの土曜授業日(振替無)を数回設定しました。設定日を連休前後の土曜日にするなど児童・教職員の負担に配慮しています。1学期終業式(7月21日)と2学期始業式(9月1日)を「特土」に行ったのも、その工夫の一つです。これで、ほぼ授業時数の増加分(35時間)は確保することができました。

ALTの集中配置で 英語を使う必然性を高める

総授業時数は増やせたものの、英語指導助手(ALT)の配置時数は従前のままであることから、これまでのチーム・ティーチング(TT)で授業を行うと、高学年では半分以上の授業を担当が単独で行うこととなります。中学年でも同様のことが起きます。そこで、考え出した工夫が「ALT集中配置方式」です。

これまでのTTのやり方を根本的に変え、ふだんの

授業は担任がテキストやデジタル教材を駆使しながら単独で行います。そして、その授業が3～4回続いた後の授業では、ALTが5名同時に教室に入り、ALT1名が児童6～7人を担当します。それまで担任単独の授業で学習してきたことを、児童はALTを相手に「実践」していきます。そこには「ALTの先生に英語で伝えたい!」という必然性が生じ、児童はその日に向けて学習に励みます。例えば、4月当初は自己紹介やちょっとした質問の受け答えを担当単独の授業で学習し、集中配置日にそれを駆使して英語によるコミュニケーションを楽しみました。5名のALTは45分の授業内でローテーションしますので、児童は5名のALTと順番に繰り返し会話をするようになります。さらに友だちとALTとの会話をシャワーのように聴き取るようになります。ALTも従前のTTのときよりも生き生きと指導に当たっています。派遣会社のインタラクティブとの連携により実現したALT集中配置方式は、ALTの配置予算を増やすことなく、ALT本来の役割を現在の条件下で最も生かせる方法と考えます。個々の児童の英語の発話量や聴き取る量が増えるだけでなく、児童の「英語で伝えたい!」という必然性に直接つながるものになっています。



● たくさんのALTと、繰り返し対話を楽しみます

担任単独で行う授業への不安解消と支援

英語を教えることに不安をもつ大半の教員にとって、授業を単独で行うことは、かなり高いハードルです。そこで本校では、昨年度の早い時期に平成30年度の校内研究を英語で行う旨を周知し、校長が講師となって前倒しの英語研修も行いました。また、大半

の教員が英語の研究発表会に行きました。今年度は、外国語教育で大切な「コミュニケーション」と「必然性」を主題に設定し、三鷹市教育研究奨励校の指定を受け、全校体制で研究を進めています。外国語活動で授業観察を行って指導し、校長が単独型のモデル授業を見せます。また、電子英語辞書の購入など教材・教具の充実に重点をおき、担任の不安解消と支援に努めています。

英語の日常化の推進

英語は授業だけではなかなか上達しないことから、学校生活のあらゆる場面で英語を取り入れることにしました。すでに定着しているのが朝の校門での挨拶です。教員も児童も見守りの係の方も、全員英語で“Good morning!”です。そのほか午後は“Good afternoon!”、帰りは“See you!”と、すれ違わずに児童の口から自然と出るようになりました。また、教員がふだんから“Excellent!”などの褒め言葉を英語で言ったり、校長が休み時間を利用して児童向けミニ英語教室を開いたりして、英語の日常化に努めています。

三鷹市教育委員会の学校への支援体制

三鷹市教育委員会は、新学習指導要領に向けた様々な対応策を実施しています。鷹教研(小・中合体の市教研)と市教委合同で実施した全小学校教員悉皆英語研修、ALTと合同の英語面接テスト研修、英語が苦手な教員向け短時間研修など、多様な研修が用意されました。またテキストのない低学年向けに市販の教材(DVD、CD、絵本等)を予算化して全校に配置、低学年には全授業時数分の指導案、中・高学年には新教材活用上の留意点を示した資料を配付しました。

子どもたちに小学校段階で必要とされる英語の力をどのように付けていけばよいのか。試行錯誤の軌跡は、今年度末に研究紀要としてまとめる予定です。

複式授業における授業展開

み たにこうじ 愛媛県宇和島市立戸島小学校 教頭
としま



愛媛県小学校教員
平成 20 年度海外派遣プログラム参加
平成 23 年度小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修参加
平成 27 年度英語教育推進リーダー中央研修参加
平成 28, 29 年度外国語活動専科教員
平成 30 年度宇和島市立戸島小学校教頭として赴任
『主体的な学びをめざす小学校英語教育』（教育出版）執筆者

宇和海に浮かぶ戸島の小学校

本校は、宇和島市の中心から直線距離で約 20km 離れた宇和海に浮かぶ人口 300 人程度の戸島にあります。全校児童 21 名の小規模校で、複式学級があります。子どもたちは非常に明るく、学習に真面目に取り組んでいます。保護者も学校に対して協力的です。保護者のほとんどは漁業に従事しており、養殖されたモジャコは「戸島のブリ」として全国各地に出荷されています。また、隣の島は藤原純友の乱で有名な日振島すみともです。本島も観光地ではないのですが、長宗我部元親ひぶりに滅ぼされた土佐一条家最後の当主、戦国大名「一条兼定」のお墓があります。伊予の国に落ち延びてきた一条兼定は、キリシタン大名としても知られており、お墓はステンドグラスに飾られ、お堂のような形になっています。ちなみに長宗我部家からの刺客を撃退した伝説が残っており、歴史ファンにとって興味のある島かもしれません。

複式学級の授業の進め方

小学校設置基準第 4 条、第 5 条や公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律第 3 条に規定されており、小学校では、「引き続き 2 の学年の児童数の合計が 16 人以下の場合」、1 学級編制とすることとなっています。例外があり、1 年生を含む場合は、8 名以下と規定されています。

複式学級での授業の進め方には、大きく分けて 2 つあります。「学年別指導」と「同単元指導」です。簡単に説明をしますと「学年別指導」は、異学年がそれぞれの学年の授業を同じ教室で行います。「同単元指導」は細かく分けると多くなってしまうため詳細は省きますが、一般的に知られている形としては、A 年度と B 年度の年間指導計画を考え、異学年が同一の授業を同じ教室で受けている状態を想像してください。今年度に A 年度の学習内容を行えば、来年度は B 年度の学習内容を行い、2 年間で 2 年分の学習を行うようになっていると考えていただくと分かりやすいかもしれません。それぞれの指導方法には、長所、短所があります。

「学年別指導」の長所は、教科の系統性を踏まえた指導、そして学年の発達段階に応じた指導が容易であることです。また、児童の転出入に左右されることがありません。短所は「直接指導」と「間接指導」の組み合わせや、教師の「わりり」が複雑になることです。「直接指導」とは、教師が A 学年に直接発問をしたり発言を聞いたりしている時間帯のことです。「間接指導」とは、教師が A 学年を直接指導しているとき、B 学年の児童が自力解決をしたり、習熟を図るために練習問題に取り組んだりしている時間帯のことを言います。「わりり」は教師がどのように A、B 学年を行き来し、指導や評価を行っていくかという行動計画のよ

うなものと考えてください。他にも「学年別指導」の短所としては、個別指導の時間を確保することが難しく、個人差に対応することが難しいことがあります。

「同単元指導」の長所は、教師は一つの授業を行えばよいので、指導や準備に対する精神的な負担感は非常に少なくなります。子どもたちも同じ授業を受けている人数が増えますので、様々な意見を聞くことができたり、考えを深めたりすることができます。短所としては、系統性の強い教科では指導計画の作成や、実際の指導が難しいことがあります。また、上学年の内容を下学年が学習するとき、下学年には難しく、定着できない場合があります。そのため、下学年に対応した指導法や評価などを考えておくことが大切です。また、児童の転入がある場合は、未履修につながる恐れがあります。



● ALT との授業には、子どもたちも夢中

「同単元指導」と「学年別指導」を組み合わせた授業展開

本校には市教育委員会から月に1回 ALT が、月に2、3回程度 JTE が来校し、それに合わせて授業を行っています。教頭の私も授業を担当しています。定期船の時間帯や、様々な事情により、ALT と私の TT の場合は、3・4年生に「同単元指導」、5・6年生には「学年別指導」を行い、JTE と私の場合は5・6年生には別々に外国語活動の時間を設定し、TT の授業を行っています。ALT や JTE がいない場合は5・6年生による「学年別指導」を行っています。

3・4年生に行っている「同単元指導」においては、単学年での指導よりも児童の人数が増え、対話する回数を多く行うことができます。5・6年生の授

業では ALT と行っている「学年別指導」のとき、様々な形態で授業を行っています。例示が必要な場合には TT で直接指導をしたり、習熟を図るときには、各学年に私と ALT が分かれて指導や練習を行ったりしています。JTE との TT では、スモールトークを入れながら授業を行っています。私一人だけで「学年別指導」を行っているときには、発表するための準備物を間接指導のあいだに作らせたり、児童相互でのインタビューを直接指導のときにさせたりしています。「直接指導」と「間接指導」のイメージが分かりにくいかもしれませんので簡単に図で示します。

*時間の流れ→

A 学年	復習	課題把握	発表等
わたり	間接指導	直接指導	直接指導
	直接指導	間接指導	
B 学年	課題把握	復習、練習	発表等

直接指導と間接指導の時間を作るために「ずらし」という方法で、指導時間帯を学年ごとに変えています。直接指導の学年は教師が指導をしていますが、間接指導の学年は、児童が自分たちで授業を進めています。現在の外国語活動では自力解決的な学習をいつも行うのは難しく、学年に2名以上児童が在籍している場合、ペア学習を行わせ、復習や練習を行えるように考えています。

外国語科に向けて

外国語科になったとき、文字指導だけでなく、今以上に学習内容の習熟や定着を図る必要があります。複式授業でも直接指導と間接指導を上手に組み合わせれば、学年別指導においてもより定着を図ることができるのではないかと考えられます。よく、「複式指導は、教育の原点である」と言われています。学級内で個人差が大きい場合は、学級内に複式学級があると考えてみると指導方法も変わってくるかもしれません。大規模校に勤務されている先生方にも参考になればと思います。

移行期間中の実践—04

外国語巡回指導教員としての取り組み

前田陽子 熊本市立鮑田東小学校 教諭



熊本市内小学校数校での教員経験ののち、本年度より熊本市外国語巡回指導教員。平成29年度英語教育推進リーダー中央研修参加。『主体的な学びをめざす小学校英語教育』（教育出版）執筆者

熊本市における移行期間中の取り組み

平成32年度(2020年度)を迎えるまでの移行期間中、熊本市では全小学校において、中学年では35時間、高学年では外国語科を加味した70時間の外国語活動を先行実施しています。今年度、4月からの授業をどうしたらよいか困っていた現場により知らせが届きました。外国語巡回指導教員、外国語専科教員の配置です。主な業務は下の4つです。

- ①【授業づくりに関わる支援】
 - 基本的な授業の流れを教員間で統一する。
 - 学習指導計画や教材を作成する。
 - デジタル教材の活用を促進する。
- ②【学級担任とのチーム・ティーチング(TT)】
 - 指導の在り方やALTとの関わり方についてTTで授業に関わり、担任に実践を通して指導する。
- ③【学習環境の整備】
 - 廊下や階段、外国語ルームなどにポスターや英語カードなどの掲示を行い、英語に慣れ親しむ環境を整備する。
- ④【研修の実施】
 - 本務校、兼務校、巡回校で研修を実施する。
 - 市教委主催の研修等の講師を務め、最新の外国語教育の内容を周知し方向性を示す。

私は巡回指導教員として週1日の本務校勤務以外、

18校の巡回指導を行っています。どの学校へ行っても、多くの子どもたちが外国語活動を心待ちにしています。その一方で、授業を行うことへの不安感や戸惑いを感じている先生方が多いようです。まさにこのような状況において、外国語巡回指導教員の活用は大いに意義があるものと感じています。

グループウェア活用との相乗効果

熊本市では、学校および教育委員会の各教職員間で、グループウェアを活用した電子メールや掲示板で情報をやりとりすることが容易になりました。そのため、巡回する学校の外国語担当の先生方とスケジュールや授業内容のやりとりをスムーズに行うことができます。また、ワークシートや振り返りシート、評価をどうすればよいか?という先生方の質問に答えたり、資料を送ったりという情報交換も気軽に行っています。このような環境整備の支援があることで、これまで各学校あるいは一人で悩んでいたことも、課題を共有し共に解決し合うことができるようになりました。これも、巡回指導教員と巡回校の先生方が顔を合わせ、互いに外国語について語り合うことができるからこそその活用促進だと考えます。単なる環境整備というハード面のメリットだけでは成し得ないものではないでしょうか。

巡回指導の実際

では、巡回指導の実際を紹介します。巡回当初は外国語活動の授業イメージをつかんでいただくことに重きをおいて、TTで授業を始めました。特に、これまで外国語活動の授業経験がない先生方に指導法を示すことが不可欠だと考えたからです。加えて、これまで高学年を経験し外国語活動を指導していた先生

方も、Hi, friends! と Let's Try!, We Can! の新教材が混在した移行期間における活動計画の進め方には多くの戸惑いがあるようでした。

例えば、熊本市の年間計画（6年生）では、Hi, friends!2 の Lesson 3 [I can swim.] を4時間指導した後で、新5年生用 We Can! 1 の Unit 5 [She can run fast. He can jump high.] を2時間、続けて Unit 9 [Who is your hero?] を2時間で行う計画になっています。指導案は文科省から提示されているものの、「新出の she/he をどう扱うの?」「8時間計画なのに2時間のみ実施なんてどこを削るの?」と困惑していたのです。そこで、昨年度の英語教育推進リーダー中央研修で学んだことを活かし、授業デザインの工夫を提案しました。

高学年ならではの単元の文脈を意識し、3つの単元の内容を大きく一つの活動計画とし、ゴールとなるタスク活動を示すことで、1時間ごとの具体的な指導内容として段階的に捉えることができ、進めやすくなったようです。また、「書き写す」活動も具体的な指導方法を伝えることで、先生方も「書く」指導のイメージをはっきりつかむことができたように思います。

1学期後半には、各小学校への巡回も3巡目を終え、先生方も担任ならではの良さを活かした指導の工

夫を行い、子どもたちとの英語によるやりとりを楽しむ様子が見られています。

授業中は、子どもの学びの様子を写真やビデオで撮影し、記録にとっています。他教科等の授業と同じく、授業中の子どもの「つぶやき」や「声にならない表情、反応」に学びの事実を見取ることができるからです。これらを放課後に整理し、その日のうちに英語通信（左下参照）にまとめ、子どもの姿から何を学び、今後の指導の工夫にどう活かしていくかを記載したり、授業づくりに参考となる資料を載せたりしています。

また、“English Cafe” と名付けたミニ研修会を放課後に20分程度行い、ゲームの試行、一言英会話レッスンなど、情報交換や意見交換、授業リフレクションを行い、先生方と気軽に外国語教育について語り合うようにしています。



● English Cafe で気軽に意見交換しています

2学期が始まり、指導経験が浅かった先生方も、週に1時間あるいは2時間の授業を積み重ね、少しずつ授業の流れをつかみ始めた頃だと思います。さらには「もっとクラスルーム・イングリッシュをスムーズに使いたい!」「気付きを促すためにどんな工夫ができるの?」など、段階を踏まえながら各々の課題に直面していくことでしょう。これまで実践を重ねてこられた先生方にとっては、2年後の完全実施に向け、ご自身の指導の在り方を見つめ直す時期にきているとも言えます。そのため、各校の様々な状況、多様なニーズ、教員間の意識の差がある現状において、巡回指導教員として、必要な情報を適切に伝える難しさも感じています。まずは、巡回校の先生方と共に実践を積み重ね、子どもたちの学びの事実を見取る面白さ、小学校外国語教育について語り合う楽しさを味わいたいと思います。



コメントワードで心をつなぐ英語活動を ～小さな村の実践を振り返って～

だいもん のりこ
■大門賀子 (大阪府千早赤阪村立千早小吹台小学校 教頭)

はじめに

大阪府唯一の村である千早赤阪村の小学校で、私が週1回の英語活動(外国語活動)を行うようになったのは、平成12年のことです。「世界にはばたく子どもを育てたい」という村の方針により、赴任前から4つの小学校に週1回のALTとの活動機会が保障されていました。活動内容などは特に決められたものではなく、年間何時間という制約もありませんでした。活動内容は、国際理解の視点をもちながら、日常英会話や歌、絵本などそれぞれの発達段階を考えて各担任が工夫していました。

当時私が勤めていた多聞小学校(平成19年3月廃校)では、年に1回の支援学校との交流に向けて、手話の学習の時間がありました。自分の名前や好きなものを伝える活動を通して、「分かるうとして聴き、伝えようとしてジェスチャーをしながらゆっくり話す」温かい雰囲気になるその時間は、その後私が英語活動を進めていく上で大切にしてきたことと深く関わっています。

どこでもだれでもできる英語教育

平成16年に赴任した赤阪小学校では、英語科と情報科の文部科学省の指定を受けた研究が3年目を迎え、私は英語科の研究主任として研究することになりました。その1年後に、研究指定は1幼稚園4小学校1中学校という村全体に広がりました。

「どこでもだれでもできる英語教育」をモットーに、教室で担任中心の授業を展開しました。1・2年生は週1コマの30分、3年生は30分と15分、4・5・6年生は30分が2コマ。平成18・19年度は私が中学校に行き、「総合英語」の授業をTTでさせていただきます。中学校の学習内容とは関係なく、小学校で親しんだ歌や表現を使用しながら、コミュニケーション中心の授業をしました。幼小中の活動をお互いに公開しながら、理解と連携を深め、スムーズな接続へとつながっていきました。小中合同の実技研修は今でも夏季休業中に行われています。

研究開発の4年間では、週10コマ、1500近い外国語活動の指導案を作りました。その中にはうまくいかないこともたくさんありましたが、そこからたくさんを学びました。ALTはガーナ出身のノア先生で、16年間ともに指導してくださったことも非常に大きな財産になっています。彼は常に「英語はみなさんにとって母語じゃないから、失敗をおそれないでください。」と言って励まし続けてくれました。そうして悩みながらも経験を積み重ねることによって、今ではどの先生も子どもたちが生き生きと活動する授業を展開できるようになってきました。

担任の役割

その頃の小学校では「英語が苦手だから小学校の先生になったのに」という言葉がよく聞かれました。しかし、子どもたちのことをよく理解している担任の先生が、英語を話したりゲームに参加したりしていると、子どもたちは興味深く、うれしそうに見ていました。担任でない立場で進めていた私は、「発音や英語の文法に自信がなくても、担任の先生だからこそできることがある」と強く感じ、担任の主な役割を次のように整理してみました。

- ☆モデルになる：話者として、学習者として。
- ☆励ます：安心感を与え、子どもの力を発揮させる。
- ☆認める：子どもの発話や意欲を受け止める。
- ☆褒める：自己肯定感を育て、学習意欲を高める。
- ☆評価する：正しく評価し、次の授業に生かす。

褒め言葉やあいづち表現を大切に

先生方には、指示としてのクラスルーム・イングリッシュよりも先に、褒め言葉をたくさん覚えてもらいました。そしてそのようなコメントワードを子ども同士でも言い合うことが、活動を温かく、活発なものにするということが分かりました。コミュニケーションを中心に研究するようになり、あいづちやうなずきなどの反応がコミュニケーションを円滑にし、子どもたちが安心して活動するために必要であることを村全体で共通理

解しました。自己表現活動を大切にしながら、Clear Voice, Smile, Eye Contact, Reaction, Gesture を活動のポイントとしました。



● 活動を活性化するため、心をつなぐ一言「コメントワード」のリスト

活動を組み立てる中で、大切にしていること

- ◇外国語(英語)がもつ音声の特性を大切に。(発音・リズム・アクセント・イントネーション)
- ◇児童の発達段階や実態に合う活動を行う。(スモールステップ)
- ◇実生活に近い場面や話題を設定する。(必然性)
- ◇自己肯定感・達成感・自己有用感を感じさせる活動を積み重ねる。
- ◇インタラクティブな活動(双方向のコミュニケーション)である。
- ◇あいづちや繰り返しなどの反応をする。
- ◇他教科との関連で広がりのある活動を考える。
- ◇国際理解(異文化理解)・自国文化の見直しなどの視点も取り入れる。



● 留学生との交流

成果を共有財産に

担任の先生が作った指導計画やワークシート、通知表に書く文章のデータは、すべて共有のフォルダに入れ、お互いが参考資料として活用できるようにしています。また、各学期には単元計画を冊子として配ったりもしてきました。



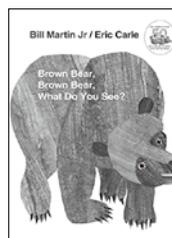
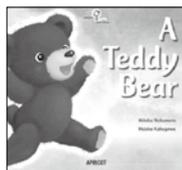
● 単元計画やふり返りシート

新学習指導要領、教科化に向けて

研究開発の指定が終わってからも、英語活動として村独自のシラバスを全学年で続けてきましたが、今年度からは新学習指導要領の完全実施に向けて、3・4年生は週1回45分の活動に、5・6年生は週2回45分の活動になりました。これからの課題は、「聞く」「話す」を中心に取り組んできた成果を生かしながら、「読む」「書く」の系統的で効果的な指導方法について研究することです。

〈おすすめの絵本〉

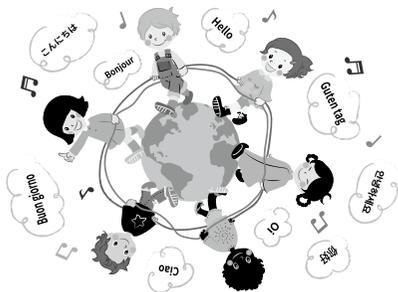
アプリコット出版の絵本シリーズはどれも楽しくて、温かい気持ちになります。エリック・カールの絵本も飽きずに繰り返し楽しめます。



〈おすすめの教材〉

成美堂のCD『歌っておぼえる らくらくイングリッシュ1・2』は、入門期向けのオリジナル・ソングが多数収録されており、「学園天国」の替え歌のLet's Start English Classなども楽しく、子どもたちに好評です。





世界の国から Hello!



第1回 シンガポール編 くさのたまき 草壁圭紀

海外に住む方に、現地の小学校生活を中心に、暮らしぶりをレポートしていただきます。
第1回は国際色豊かなシンガポールからです。



多様性豊かな環境で暮らす

1965年にマレーシアから独立したシンガポール共和国は、東京23区ほどの面積の小さな国で、人口は約580万人(2018年現在)、市民権や永住権をもたない外国人が約30%を占める、とても国際的な国です。主要民族は中華系、マレー系、インド系が順に占め、宗教や生活習慣も多様ですが、公用語である英語を通して異文化がつながる、多様性豊かな国です。

子どもたちにとっても、同じ国に住み、同じ学校に通いながらも、異なる食文化や生活習慣、宗教を互いに尊重しながら暮らすというスタイルが日常です。我が家のふたりの娘たちも、部活で同じチームの友達がイスラム教徒で、時期が来ればラマダンという名の断食をしていたり、旧正月の時期には、中華系の友達の両親から、赤い封筒に入った「紅包(ほんぽお)」と呼ばれるお年玉をいただいたりと、さまざまな体験をしています。



学校ごとの特色あるカリキュラム

シンガポール人の子どもたちは、政府から特別に認められない限り、政府管轄の公立校へ通います。家庭では中国語、マレー語、ヒンディー語、英語と、さまざまな言語環境にいる子どもたちが、学校では授業を英語で受けています。

各学校によりプログラムに特色がありますが、全ての学校で1年生から週5時間以上の学習時間がある

主要教科は、英語・算数・母語(英語以外の3つの公用語、中国語・マレー語・タミール語から選択)の3教科です。3年生以降はこれに理科が加わり、この主要4教科は3年生以降の学期末に試験が実施されます。他に、体育・美術・音楽・社会科・学級活動・道徳などのクラスがあります。こういった授業の中に、アクティブ・ラーニング、ICT、キャラクター開発、また、アウトドア・エデュケーションという、ダンスやコンピュータ、遠足などの特殊なプログラムが含まれています。子どもたちの学習意欲を高める内容になるように、各学校が試行錯誤しながら時間割をつくっています。



●筆者の次女(3年生)の、ある日の登校スタイルとバックパックの中身。教科書はほとんど学校に置きっぱなしで、使うものだけ持ち帰る。ほかに水筒、筆箱、お菓子、リコーダー、読書用の本などを持参。

日本と違い、小学校1年生から各教科で指導教員が異なるため、複数の先生と接することができることは、私自身が良いと思っているシンガポール公立校の特徴の1つです。それぞれの先生から子どもの学習態度や性格についてなど、いろいろな見解をもらい

ながら学校生活を送れることは、人間性や学習意欲を高めて行くうえで子どもたちのモチベーション向上につながっている気がします。

娘たちの学校の現在の時間割は、週5日、毎日7時半頃からの朝会の後、7時45分から午後1時半までが就学時間です。休み時間は2学年ごとに10時から11時半を3分割し、30分間ずつ取ります。その時間には canteen と呼ばれる学食でランチやスナックをとったり、遊んだりして、楽しめます。



● 3年生の英語の教科書。学校オリジナルの冊子も数多く使用する。

夫婦共働きが多いシンガポールでは Student Care Centre(SCC)と呼ばれる日本の学童施設のようなものが多く活用されています(2020年までには全小学校に設置される予定)。午後1時半に学校が終わると、SCCに登録している児童はそちらへ行き、昼食をみんなで食べ、宿題をしたり友達と遊んだりします。SCCに登録していない児童は、スクールバスを利用するか、保護者やメイドさんのお迎えを待ち、家に帰って昼食を食べ、習い事へ行ったり遊んだりして過ごします。

学校では、部活動やクラブ活動などのアクティビティも活発です。入部している子どもたちは、canteenで昼食を食べ、週1~2回はクラブ活動に行きます。スクールチームと呼ばれる学校代表チームに選抜されると、週3回ほど夕方5時半まで練習があります。娘たちの通う学校(女子校)では、1年生から新体操、器械体操、ネットボール、中国舞踊、モダンダンス、テニス、スイミング、ブラウニー(ガールズスカウト)、アートクラブ、コーラス、サイエンスクラブ、ミュージックアンサンブルなどのクラブ活動があります。

学校の宿題は、低・中学年ではそれほどありませんが、高学年になると格段に増えるようで、5年生の長女は毎日帰宅後に宿題をしています。日本のよう



● 新体操のクラブ活動で、スクールチームとして大会に出場。

な音読や漢字練習などではなく、英語や中国語の授業のエッセイを書いたり、インターネットで調べ物をしてまとめたり、というような宿題です。ちなみに娘の学校では、ホリデー中には宿題は出ません。

シンガポールは4学期制で、1月2日から始まります。長いホリデーは、2学期末の6月に1か月間、4学期(年度)末の11月中旬から1月1日までの1か月半あります。長いお休みの間には、ホリデープログラムやキャンプに参加したり、家族旅行へ行ったりして過ごす子どもが多いようです。



日本への高い関心

日本は近年、シンガポール人の中で人気の旅行先になっているようです。シンガポールは1年を通して30℃前後の常夏で、寒い季節が珍しいため、11月中旬からの年度末の休みや、3月にある1週間の中間休みにはスキーや雪体験をしに北海道へ行く人が多いようです。また、食文化への関心が高いシンガポールでは、子どもたちも日本食にとっても興味があり、クラスの「好きな食べ物アンケート」では、日本のラーメンやうどん、おそばやお寿司などが多数を占めることもあるほどです。北海道が火付け役となり、日本のその他の地域へも関心が広がっているようです。

草埜圭紀(くさの・たまき)

兵庫県出身。夫婦ともに海外で教育を終えたことから、子どもたちにも英語環境で暮らす機会をと、2012年に家族でシンガポールに移住。GROW UP GLOBAL 主宰。「グローバルに育つ・育てる」をテーマに facebook から情報発信中。 <https://www.facebook.com/growupglobal/>



連載

豊かなコミュニケーションを育むアクティビティ
学級作りにもつながるおすすめの活動を紹介しします

【第4回】

言葉送り—言葉のプレゼント

■遠藤恵利子 (東北学院大学非常勤講師・元 仙台市立 向山小学校教諭)

むかいやま

相手に心寄せ、丁寧に言葉を送ろう！

十分なインプットを行ってから、発話につながるアウトプットを意識したドリル活動として行うことができます。どの学年のどの単元でも、そこで扱う単語やセンテンスを使って行うことができます。「言葉」をどのように使えば、心地よく相手に届けられるか、気付きを促していきます。

言葉送り【基本バージョン】

▼進め方

●例：「好きな果物」を「言葉送り」する場合。

T1は、「I like bananas.」と、T2に向けて伝える。このときT1は腕を相手(T2)の方に伸ばし、手のひらに言葉を乗せて、贈り物をするような動作をしながら行う。

これに対してT2は、胸のところで両手でプレゼントをいただく動作をしながら、「Thank you.」と言う。T2は、次に腕を児童の一人に向け、手のひらに言葉を乗せるように、「I like bananas.」と言って言葉のプレゼントをする。

言葉を受け取った児童S1は、「Thank you.」と両手で言葉を受け取り、次に「I like bananas.」と他の友達に向け言葉を送る。・・・これを繰り返す、最後は児童がT1に言葉のプレゼントを返して終了。

※ルールを理解するまでは全員で行う。まずは隣に順番に送る練習をし、その後で離れた席にいる人に向けて送るようにするとよい。子どもの活動量を高めるために、学級をグループに分け、10～15人程度で行うとよい。



イラスト・田村敬子

言葉送り【応用バージョン】

▼進め方

①基本バージョンを進めていくと、児童から「自分の好きなものを言いたい!」という反応が出ます。それを引き出し、「I like bananas.」を受け取ったら、「Thank you. I like melons.」と、自分の言いたい言葉を送ることにします。自分で伝えたい言葉を選択して送ることで、ドリル活動ではあるものの自己表現に近づけることができます。



②学習状況や児童の実態に応じて、尋ね合う表現を使って言葉送りをすることができます。T1が、「I want to go to Canada. Where do you want to go?」などと尋ねる表現を送ります。言葉を手のひらに乗せて丁寧に相手に送ります。受け取った児童S1は、「Thank you. I want to go to China. (次の相手S2に) Where do you want to go?」と言葉送りを続けます。

※「What color do you like?」や「What do you want to be?」など、既習、あるいは学習中の目標表現を使って送る言葉のバリエーションを工夫します。

「言葉送り」のポイント

- ①インプットが不十分な段階では安易に行わない。
- ②言葉を手のひらに乗せて、送りたい相手に向ける。
- ③クリアヴォイスで最後まで相手に伝える。
- ④誰に送ったか、言葉の行方を皆が集中して見ていること。

これらのこと全てを教師があらかじめ教え込むのではなく、活動をしながら好ましい送り方や心地よい伝え方を取り上げて評価するなどし、よりよい言葉の送り方や伝え方に気付かせていきます。

心を伝える Classroom English

Classroom English (教室英語)は「人と人をつなげる」コミュニケーション・ツールです。伝えるために大切なのは、正確な発音よりも、気持ちを込めることです。イントネーションや声、顔、身体表現にも工夫が必要です。Classroom English を上手に使うって、児童とのコミュニケーションを深めましょう。



福田 スティーブ利久
文教大学教育学部准教授

第4回 【活動中は3語でOK!】

児童を活動に集中させるため、先生があまり長々しゃべらない方がよいという意見には皆さん賛成だと思います。今回は“Ready, Set, Go!”のような、児童の活動をスムーズに促せる、3語だけの、簡単で覚えやすい・使いやすいクラスルーム・イングリッシュをご紹介します。

おさえておきたい定番フレーズ

授業の開始時や終了時だけでなく、活動中にも先生がモデルとしてどんどん英語を使っていきましょう。簡単かつ短い英文を使えば使うほど、それが児童への良質なインプットとなり、児童からのアウトプットにも繋がります。例えば：

1. Find [Switch] your partner. (パートナーを見つけよう [変えよう]。)
2. Come here [Move there]. (こちらにおいて [あそこに行って]。)
3. Make a pair [group]. (ペア [グループ] を作る。)
4. Face your partner. (パートナーと向き合って。)
5. Who is first? (最初にやりたい人?)
6. Need a hint? (ヒントがほしい?)
7. How many points? (何点だった?)
8. Write your name. (名前を書いて。)
9. Time is up. (時間になったよ。)
10. Are you finished? (終わった?)

応用編：活動中、ALTにも3語で話そう。

先生がALTと会話している姿も、児童にとっての

モデルになります。3語からでいいので使ってみましょう。Pleaseを語尾につけて、丁寧な表現にもできます。Speak more slowly. (ゆっくり話してください。)
One more time. (もう一度お願いします。)
Here you are. (どうぞ。)
Ask students questions. (児童に質問をして。)
One more hint. (ヒントをあげてください。)
Could you help? (手伝ってくれますか。)
You be A-san. (あなたはAさん役ね。)

★ワンポイント・レッスン

前に注意を向けてほしいとき、児童自身が気づいて、集中してくれる方法がないかを考えていたところ、毎年訪問する米国の小学校でよく使われるコール&レスポンスを思い出しました。先生と児童の間に決まった合言葉があり、先生が(コール)をすると児童がそれに対して(レスポンス)する。合言葉のやり取りによって先生に児童の注意を向けるのです。米国の小学校では、以下のものをよく使います：

T: Class, class. / Ss: Yes, yes! (※同じリズムで)
T: Banana. / Ss: Split! (※アメリカで流行っています)
T: Flat tire. / Ss: Shhh! (これでshの音の練習にもなります)

T: Mona. / Ss: Lisa! (児童がモナリザと同じように姿勢を正し、手を膝に置き、口を閉じ、前を見る)

私が考えたのは、リズムよく T: 3, 2, 1. / Ss: 5B (自分たちの学級) is Number One! クラス団結にも繋がる一石二鳥のコール&レスポンスだと思うのですが、いかがでしょうか。



Steve T. Fukuda

日米の両方で教育を受ける。高校教員を経て、教員養成に携わるために大学の教員となる。モットーは「思いやり」と「恩送り」。



主体的な学びをめざす 小学校英語教育

—教科化からの新しい展開—

小学校英語の教科化を踏まえ、「主体的な学び」をキーワードに、具体的な展開の仕方を提示する。

金森 強・本多敏幸・泉 恵美子 編著
A5判 / 216 ページ / 定価：本体 2,400 円+税



Q&A 小学英語 指導法事典

教師の質問112に答える

小学校英語の教科化に向けた教師たちの質問や悩みに、理論と実践の両面から答える。

好評「Q&A 中学英語指導法事典」の小学校版。

樋口忠彦・高橋一幸・加賀田哲也・泉 恵美子 編著
A5判 / 288 ページ / 定価：本体 2,800 円+税



教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 TEL : 03-3238-6965
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp> FAX : 03-3238-6999

こちらから
弊社サイトに
アクセスできます。



Smiles

◎あとがき

今号は新課程への移行期間中の実践について特集しましたが、本誌をお読みいただいている先生の地域や学校ではどのようにお進めになっているのでしょうか。各都道府県および市区町村の教育委員会もそれぞれの地域に合った工夫をされていることと思います。弊社ウェブサイトの「お問い合わせフォーム」を通して編集部へ近況をお寄せいただき、好評な実践や学校現場の抱えている課題等をお教えいただければと思います。

教育出版英語編集部

小学英語通信 ONE WORLD 小学校英語応援マガジン Smiles [2018年秋号] 2018年8月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集部

印刷：大日本印刷株式会社

発行：教育出版株式会社 代表者：伊東千尋

発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

電話 03-3238-6864(内容について) 03-3238-6901(配達について)

URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

表紙イラスト：クドウあや



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2
あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東恵比寿2-11-30 クレセント東福岡 E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり、配付を許可されているものです。